

新潟本社行動計画の取り組み状況について

2024年度 第1四半期進捗報告



2024年8月21日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

1. 安全性向上の取り組み **update**
2. 新潟本社運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み
 - ①緊急時の初動体制
 - ②新潟県原子力防災訓練への協力
4. 産業活性化の取り組み **update**
5. 地域貢献の取り組み
 - ①長岡技術科学大学との共同研究 **update**
 - ②地域行事への参加 **update**
6. 傾聴と対話の取り組み
 - ①コミュニケーションブース **update**
 - ②県民の皆さまへの説明会 **update**
 - ③発電所視察対応 **update**

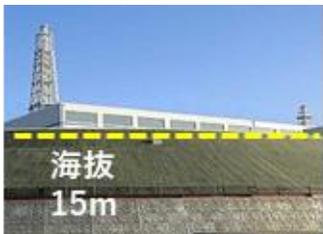
1. 安全性向上の取り組み (1/3)

■ 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえた安全対策、事故対応訓練を実施

<主な対策>

津波

- 海拔約15mの防潮堤や浸水を防ぐ水密扉を設置
- 配管貫通部には止水処理を実施



電源

- 発電機車や電源車等を津波影響を受けない高台に設置



注水・除熱

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、大容量送水車等を配備
- 万が一、炉心が損傷するような事故が起きたとしても、代替循環冷却設備により、少なくとも10日間は、放射性物質の放出を遅らせ、その間に事故対応を実施
- 放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置

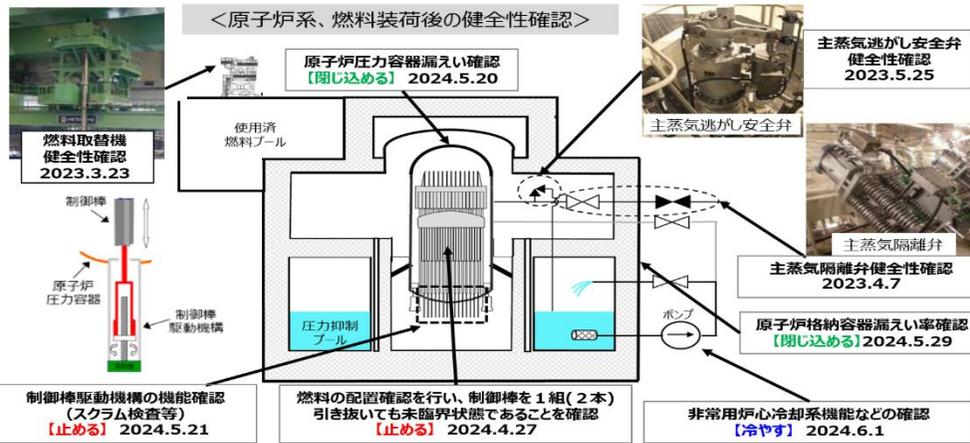


1. 安全性向上の取り組み (2/3)

- 柏崎刈羽原子力発電所の目指す姿として掲げた「核物質防護」「安全対策工事・主要設備の健全性確認」「緊急時等の対応力」「コミュニケーション」の4つの柱について成果があがっている。また7号機では、原子炉の起動にあたっての技術的な準備が整う

健全性確認

- ・ 7号機では、「止める・冷やす・閉じこめる」ための設備が機能を発揮できることを確認



事故対応における技術的能力の向上

- ・ 津波や地震等の自然災害や過酷な状況を想定した「総合訓練」や電源供給、注水接続等といった「個別訓練」を積み重ね、複数の戦術を準備、的確な判断・指示、情報発信等に関する力量を向上
- ・ 運転員は、シミュレーター訓練や、五感を養う火力発電所等での実機体感訓練を通じ、技術的能力を向上



核物質防護

- ・ 「設備」「運用」の両面で改善活動を推進
- ・ IAEA(国際原子力機関)からは「改善措置計画のほとんどが完了し、一連の問題の根本原因に対処した」と評価



コミュニケーション

- ・ あいさつ運動や協力企業社員を含めた対話会等を継続し、発電所内のコミュニケーションが円滑化



1. 安全性向上の取り組み (3/3)

<災害対策支援拠点の整備>

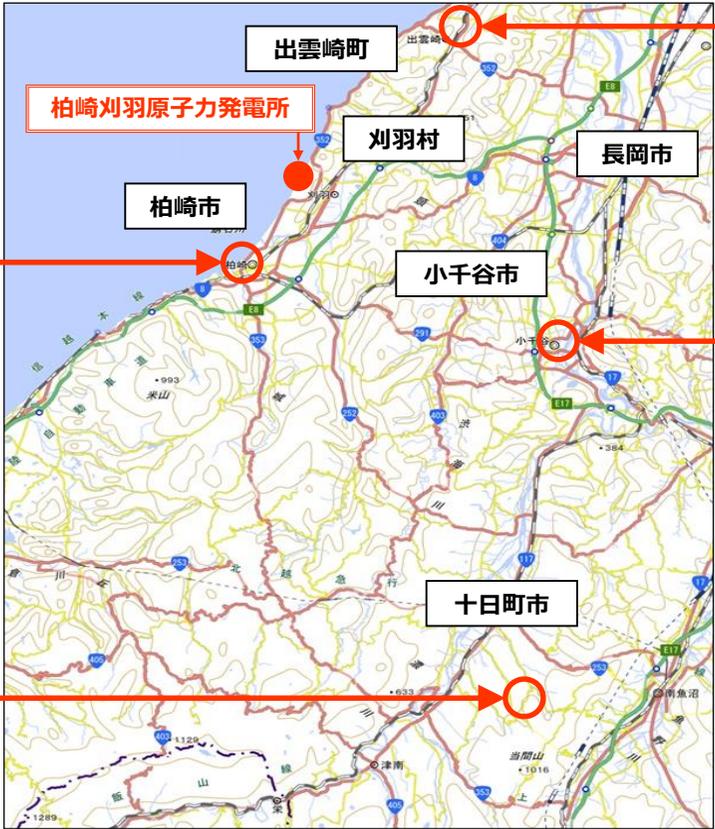
- 原子力発電所の災害対策（事故の収束や拡大防止）を支援するため、必要な資機材を保管・調達し、発電所へ送り出したり、対応要員の往來を管理するための拠点
- 当社では、柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾート、出雲崎拠点の4拠点を整備
- 災害対策支援拠点を多重化することで、支援活動を強化

柏崎エネルギーホール



* 柏崎エネルギーホール建替中(2024年5月~2026年12月)、
一時的な代替拠点として南光寮(柏崎市内)を整備済

当間高原リゾート



出雲崎拠点



信濃川電力所



出典：国土地理院電子国土Webシステム

2. 新潟本社運営体制の構築の取り組み (2/2)

update

<新潟県技術委員会における柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認>

以下に2024年4月～6月に開催された新潟県技術委員会の実績を示す。(下線部が当社の対応実績)

■ 2024年度第1回新潟県技術委員会 (開催日：2024年4月16日)

- 「施設の液状化対策」、「水撃による圧力波の冷却水系への影響」および「冷却水系、循環水系の損傷による内部溢水への対処」など、全20項目の質問に対して、原子力規制委員会から回答
- 「水素爆発対策」、「耐震評価」、「使用済燃料プールの安全対策」、「残余のリスク等への対応」および「6号機大物搬入建屋杭の損傷について」の追加質問に対して、当社から書面回答

■ 2024年度第2回新潟県技術委員会 (開催日：2024年6月4日)

- 「改良EPDM材は高放射線に耐えるか」、「ERSSの電源及び信号伝送系は多重化/多様化されているか」、「核物質防護規定で約束した基本姿勢を事業者が守ることができるか」、「GOTHICによる解析手法の健全確認に対する国の考え」、「水素再結合装置 (PAR) の実証試験の必要性」、「能登半島地震の教訓について」およびその他地質関連の質問9件、全15件の質問に対して、原子力規制委員会から回答
- 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認事項22項目について、国や東京電力の説明や質疑の概要を図表を用いてとりまとめる方針であることを県事務局より報告
- 「水素爆発対策」および「耐震評価」の追加質問に対して、当社から書面回答
- 柏崎刈羽原子力発電所6/7号機安全対策工事における火災防護区画外へのケーブル敷設について、当社から説明

4. 産業活性化の取り組み 防災力向上、賑わい創出に向けた取り組みについて

update

- 当社と新潟工科大学の学生と協働で検討している、柏崎レジリエンスセンター緑地エリアの設計・デザインについて、2023年10月に新潟工科大の2期生が実施した「防災キャンプ」以降も、地域の防災力向上と賑わいの創出に繋げる検討を進めた
- 2期生は、新潟工科大の1期生が検討したハード面でのコンセプトを踏襲しつつ、レジリエンスセンター竣工後に備える機能を活かし、地域貢献に資するよう、またそのための認知度を高めることを目的としたイベントを検討した
- 先日6月1日に、2期生が新潟工科大祭において、イベントコンテンツの一部について実証し、アンケートを実施することで、その実効性や課題について確認した

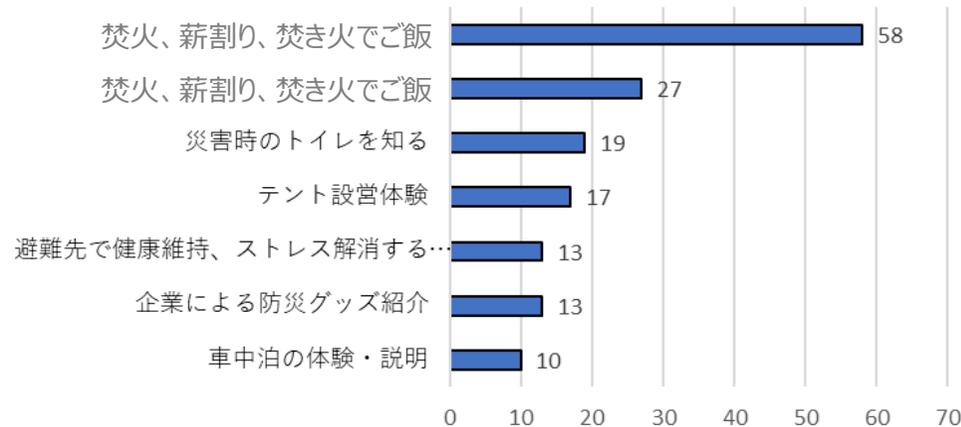
工科大祭においてコンテンツの実証



工科大祭でのアンケート結果

防災イベントで体験してみたいことはなんですか？

(複数回答可)



※アンケート回答者数 97名

5. 地域貢献の取り組み ①長岡技術科学大学との共同研究

update

- 2024年5月に東京都主催で行われたSusHi Tech Tokyo 2024に、能登半島地震の被災地支援に活用されたウォーターチェンジャー®（商品名：バイオランドリー）が展示され、フードエリアの手洗い用水として利用された
- 防災ワクチン®ワークショップについては、日本防災士機構から中越防災安全推進機構にお声掛けいただき、2024年6月に大分県で初開催された。当社もオブザーバーとして参加した。

● SusHi Tech Tokyo 2024



- ✓ ウォーターチェンジャー®とは、長岡技術科学大学と東京電力HDの共同研究の中で、開発した微生物の分解作用を用いた水の浄水装置
- ✓ 2022年に新潟県内企業のユニットライク（株）により商品化され、2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援でも活用

● 防災ワクチン®ワークショップの様子



- ✓ 共同研究の中で商標を取得した「防災ワクチン®」とは、実際の災害を体験する前に、リアリティのある疑似体験（ワクチン）をすることで人々の災害対応力（免疫力）を高めることを目指す概念
- ✓ 防災ワクチン®ワークショップは、2022年に公益社団法人中越防災安全推進機構で採用され、以降、新潟県内を中心に各地で開催

5. 地域貢献の取り組み ②地域行事への参加

update

<参加実績>

| 地域行事 | 実施日 | 作業内容 | 参加者数 |
|-------------------------------|-------------------|------------------------------------|------|
| 燕さくらマラソン大会 | 4月6日 | フィニッシュテープ、ゴール後の計測用チップの返却ご案内、ドリンク配布 | 7名 |
| 荒浜海岸除砂作業 | 4月7日 | 海岸道路の砂の除去 | 36名 |
| 見附刈谷田川ハーフマラソン大会 | 4月21日 | 記録証発行、スタート招集・誘導、駐車場誘導、定位観察員 | 10名 |
| 高浜コミュニティーセンター花植え、除草作業 | 4月23日 6月4日 | 除草、花植え | 6名 |
| 第37回信濃川河岸段丘ウォーク | 4月29日 | 監察誘導 | 4名 |
| 湯沢学園環境整備ボランティア | 5月8日 | 学園内の花壇の整備 | 6名 |
| 鯨波コミュニティーセンター除草作業 | 5月15日 | 除草 | 7名 |
| 柏崎潮風マラソン実行委員会主催 柏崎潮風マラソン大会 | 5月19日 | 誘導員 | 40名 |
| かしわざき港おさかな祭り | 6月1～2日 | 駐車場区割り作業、交通整理、駐車場係 | 11名 |
| 夢の森公園 森づくり活動 | 6月8日 6月22日 | カキツバタ植替え、除草 | 10名 |
| 「棚田みらい応援団」ボランティア（十日町市、柏崎市） | 6月15～16日 6月22日 | 田植え、草取り、水路清掃 | 8名 |
| 柏崎えんま市後の清掃活動 | 6月17日 | 清掃活動 | 30名 |

6. 傾聴と対話の取り組み ①コミュニケーションブース

update

- 新潟県内において「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、県内の皆さまからの疑問やご意見など、さまざまな「声」をお聴きしている。これまで、県内全市町村において140回開設し、29,151名にご来場いただきました
- 4月からはコミュニケーションブースの開催頻度を増やし、一人でも多くの方に柏崎刈羽原子力発電所における、発電所の安全性を向上させる取り組み等について、お伝えしています
- 引き続き県民の皆さまのご不安や疑問に丁寧にお答えするとともに、いただいた貴重なご意見については、今後の発電所運営に活かしてまいります

| 開催日程 | 市町村 | 場所 |
|-------------------|------|----------------|
| 4月13日（土）～4月14日（日） | 小千谷市 | イオン小千谷店 |
| 4月20日（土）～4月21日（日） | 十日町 | リオンドール十日町店 |
| 4月20日（土）～4月21日（日） | 燕市 | 分水ショッピングパーク パコ |
| 4月27日（土）～4月28日（日） | 新潟市 | イオンモール新潟南店 |
| 5月18日（土）～5月19日（日） | 魚沼市 | 魚沼市地域振興センター |
| 5月25日（土）～5月26日（日） | 見附市 | ネーブルみつけ |
| 6月15日（土）～6月16日（日） | 燕市 | イオン県央店 |
| 6月29日（土）～6月30日（日） | 新発田市 | イオンモール新発田 |

■ 会場で頂いた声

- ✓ なかなか発電所まで行くことができないので、このような機会があると良いと感じました。
- ✓ 今は全号機停止中ですよ。その間(動いていない間)はどんなことをしているのか。
- ✓ ずっと止まっているが、再稼働したとして、技術者の知識・技術がしっかりしているのか。
- ✓ エネルギー事情を考えると、原子力発電は必要なんですね。
- ✓ 放射性廃棄物の問題がある限り再稼働すべきではない。

6. 傾聴と対話の取り組み ②県民の皆さまへの説明会

update

- 柏崎刈羽原子力発電所の状況や原子力改革の進捗状況等を説明、広くご意見をいただくことを目的に「県民の皆さまへの説明会」を開催しています
- 地域の皆さまのご関心や、ご不安に思われていることについて、丁寧にお答えしています

| 開催日 | 場所 | 参加者数 |
|-------------|-----------------|------|
| 2024年 4月 2日 | 新潟県民会館 | 74名 |
| 2024年 4月 4日 | リージョンプラザ上越 | 39名 |
| 2024年 4月 6日 | 長岡リリックホール | 146名 |
| 2024年 4月 9日 | 見附市文化ホール アルカディア | 90名 |



■ 会場で頂いた声

- ✓ 一日も早く営業を開始してもらいたい。東日本の災害は、色々な条件が重なってできたものであり、安全性には問題ないと思われる。
- ✓ 原発は重大事故を再び起こす前に廃炉にすべき。少なくとも福島原発の廃炉を完成させてから再稼働を議論してもらいたい。
- ✓ あってはいけないが、住民の避難を確保すること、これしかないのでは。
- ✓ 対策だけで終わるのですか。発電しないことは未来への損失ではないか。

【参考】県民の皆さまへの説明会 開催実績(新潟本社設立以降)

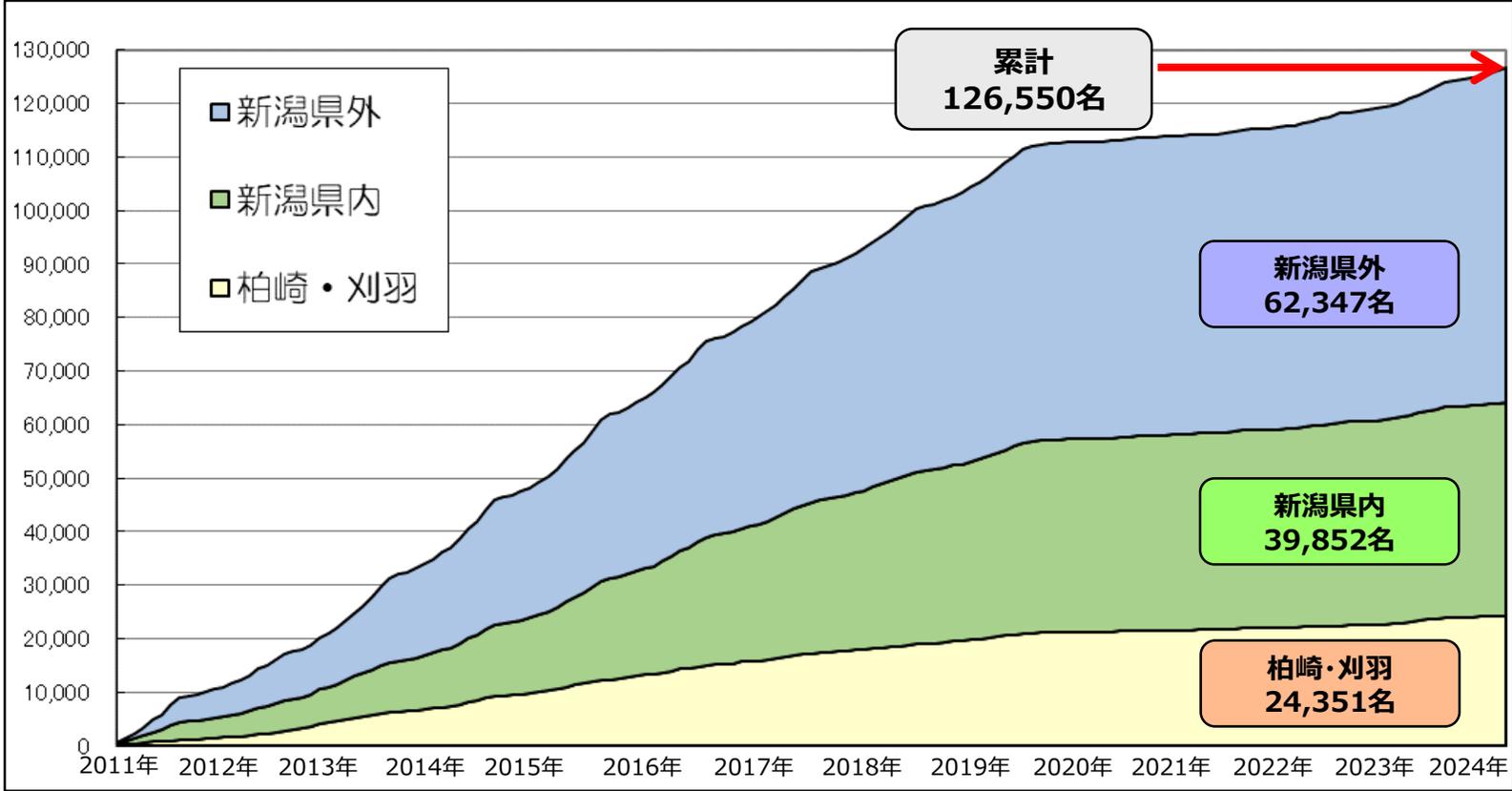
| 開催日 | 場所 | 参加者数 | 開催日 | 場所 | 参加者数 |
|-------------|-----------------|------|-------------|-----------------|------|
| 2015年 6月 8日 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 64名 | 2023年 1月30日 | 柏崎市産業文化会館 | 74名 |
| 2015年 6月 9日 | 柏崎市産業文化会館 | 128名 | 2023年 1月31日 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 39名 |
| 2015年12月21日 | 柏崎市産業文化会館 | 128名 | 2023年 2月 7日 | 長岡リリックホール | 73名 |
| 2015年12月22日 | 刈羽村農村環境改善センター | 44名 | 2023年 2月 9日 | リージョンプラザ上越 | 35名 |
| 2016年 9月13日 | 柏崎市市民プラザ | 79名 | 2023年 2月11日 | 新潟県民会館 | 87名 |
| 2016年 9月14日 | 刈羽村 高町地区集会場 | 24名 | 2024年 1月28日 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 70名 |
| 2018年 1月30日 | 柏崎市産業文化会館 | 98名 | 2024年 1月30日 | 柏崎市産業文化会館 | 149名 |
| 2018年 1月31日 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 52名 | 2024年 4月 2日 | 新潟県民会館 | 74名 |
| 2021年 1月25日 | 柏崎市文化会館アルフォーレ | 107名 | 2024年 4月 4日 | リージョンプラザ上越 | 39名 |
| 2021年 1月27日 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 79名 | 2024年 4月 6日 | 長岡リリックホール | 146名 |
| 2021年 2月 8日 | 長岡リリックホール | 109名 | 2024年 4月 9日 | 見附市文化ホール アルカディア | 90名 |
| 2021年 2月 9日 | 上越文化会館 | 66名 | 合 計 | 24会場/1,962名 | |
| 2021年 2月12日 | 新潟ユニゾンプラザ | 108名 | | | |

6. 傾聴と対話の取り組み ③ 発電所視察対応

- 福島第一原子力発電所の事故をふまえ、新潟県内をはじめ多くの皆さまに、柏崎刈羽原子力発電所を視察いただきました（2011年以降の視察実績は累計で約12万6千人）
- 視察では、「安全対策に対する理解が深まった」「取組みを多くの人に伝えるべき」との声もいただいています
- 一人でも多くの方に柏崎刈羽原子力発電所を視察いただけるよう、コミュニケーションブース等の対面の場に限らず、様々な媒体でのコミュニケーション活動を通じてご案内してまいります

【発電所視察者数】

(2024年6月30日現在)



防潮堤(5~7号機側)



貯水池

